

都小音研

令和3年3月11日第63巻437号

発行所
東京都小学校音楽教育研究会

事務所
東京都稲城市矢野口3635
稲城市立南山小学校

「未来」は「逆風」の向こうに

東京都小学校音楽教育研究会
副会長 村山 博子
(武蔵村山市立第九小学校長)

まもなく令和2年度が終わろうとしています。昨年度から続くコロナ禍で、音楽に携わる多くの人たちが様々な対応に苦慮しながら過ごしてきたことでしょう。2月からワクチンの接種も始まり、来年度こそ、それぞれがやりたいことができるような状況になってほしいと願うばかりです。

けれども、一方では、この状況が従来の様々な常識を見直すよい機会ではなかったかと思うところもあります。多くの時間をかけて何度も集まって行う会議、例年通りという名の下に土日祝日に多く行われる学校や地域の行事、学力向上・授業時数確保のために増える一方の授業時間など、地域差はあるかと思いますが、今回ほど、本当にそれがなくてはならないものだったのかを考え、対応しなければならない事態は今まで

なかったのではないのでしょうか。大勢で集まって歌うことや合奏することを当たり前のように行っていた音楽の授業ができなくなりましたが、逆にその中で多くの先生方がそれぞれの状況に合わせて、できることを模索し、工夫し、様々な困難に対応してこられたことと思います。それは、今までの「こうあらねばならない」という思い込みを抜け出し、新しい音楽の授業スタイルを創るチャンスにもなったと捉えることができます。様々な制約の中で、先生方一人一人が迷いながら、情報を集め、試し、必要があれば交渉し、自分が思う理想の授業を実現するために、自分が決めて行動することを求められてきたはずです。

先日、手元に届いた多摩南ゾーンの研究集録のページをめくると、本当に多くの先生方がこの大会にかけてこられた熱い想いを感じることができます。都小音研の研究主題「つなげよう…」のように、人と人がつながることが難しくなった中で、多摩南ゾーンの研究主題「見つけよう 深めよう 生かそう…」にあるように、先生方は精一杯この研究を「深め」何とか「生かす」ための方法として、この集録配布という対応を「見つけ」られたのではないのでしょうか。今更ながら、心底、この大会に実際に参加しなかったという想いに駆られています。

来年度に向け、また新たな計画を立てられている最中だと思います。できないことを嘆くのではなく、できることを工夫し、実現させていく、その体験はこれからも先生方一人一人の貴重な経験となり、今後の音楽教育活動に必ず生かされるものと信じています。悩み、迷うことも多いかと思いますが、迷ったら基本に立ち返り、よりよいものを求めるための失敗を恐れずに、未来に向けて子供たちを育てるといふ想いをもち続け、日々努力していきましょう。



多摩南ゾーン研究発表を終えて

多摩南ゾーン研究部長 八王子市立第四小学校 湊 りか

紙面での発表になった多摩南ゾーン研究大会。平成30年度より研究主題、研究内容の検討が始まりました。そして、令和2年、いよいよ交流が本格的に始まるというときに新型コロナウイルス感染症拡大での休校。その頃は、2学期にはもとの日常に戻り、縮小はあっても大会はできると考えていました。ところが感染が徐々に拡大し、授業研究や会議が開催不可となり、今後研究をどのように進めていくのか見通しを立てることができず、不安な日々を過ごしました。ようやく開くことができたオンライン会議では「大会をどのような形で行うか」が議題となり、残念ながら会場での発表を見送ることが決定しました。しかし、中止ではなく紙面発表を行うことに決まり、それまでの研究の積み重ねを発表したいという思いが叶えられ、ホッとしました。

その後は、多摩南ゾーン三役4人で、複数で会話が可能な電話を活用し、オンラインでの研究推進委員会の議題や提案内容を話し合いました。そして月に一度の研究推進委員会、連日のメール、電話で研究を進めました。制約がある中で、全力を尽くしたと思います。

大会はできなかったものの、6市の先生方と何度も意見交流をし、各市の音楽部担当の校長先生や都小音研研究部の先生方に多くのご助言をいただきながら、研究集録を完成させることができました。これが少しでも先生方の授業の参考になれば幸いです。学ぶ機会をいただいたことに、心より御礼と感謝を申し上げます。

令和2年度
東京都小学校音楽教育研究会研究大会

多摩南ゾーン大会

研究主題

「見つけよう 深めよう 生かそう 音楽を」

第64回

都小音研 研究大会

『山の手Cゾーン大会』

令和4年1月27日(木)

◆きゅりあん(品川区立総合区民会館)

研究主題 「つなげよう 広げよう 生かそう 私たちの音楽」

研究授業 4本

研究演奏 3本

研究発表

講演・講評



山の手Cゾーン大会は、平成16年に行われて以来17年ぶりの開催となります。品川区・大田区・目黒区の3区による研究は、本年度紙面発表となった多摩南ゾーンの研究を引き継ぎ、今まで各区で授業改善に取り組んできた結果、新たに見えてきた課題を踏まえて進め、深めていきます。児童の学びの姿、教師の具体的手立てを、大会で見いただければと思います。

各種研究会 活動紹介

コロナ禍でもそれぞれ工夫し活動してきた10の
各種研究会。この1年間の活動内容を紹介します。

指揮法研究会 (代表/新宿・落合第六小 星 悦子)

本研究会は「子どもの表現意欲を引き出す指揮法の工夫」をテーマに研究を進めています。今年度は、コロナの影響により、全都を対象とした研究会を開催することがほぼできませんでした。会員のみでの研究会を行い、講師を招いて指揮の基本から、曲想の表現について丁寧にレッスンをしていただくことができました。

編曲研究会 (代表/練馬・練馬東小 山根 大幹)

本研究会では、「児童の実態や学習に寄り添った編曲」ができるように、毎月1回、自身の実践や教科書教材を持ち寄って編曲検討を行っています。今年度は、移動が制限された状況下でも、オンラインによる研究会及び情報交換を行い、月1回の研究会を継続してまいりました。今後も、編曲する上での配慮項目を踏まえながら、研究を深めてまいります。

合唱研究会 (代表/杉並・四宮小 日尾 裕子)

本研究会では日々の授業実践を大切に、授業研究をはじめ、課題曲研究、特別研究、指揮伴奏研究、合唱祭を行っています。今年度は講師による講演会を実施した他、「2020・授業のアイデア集!・合唱研バージョン」と題し、歌唱の授業に生かすためのアンケート集や2年間の研究実践報告集として200ページを超える内容の研究集録を作成し、配布いたしました。

音楽授業研究会 (代表/練馬・関町北小 熊倉 佐和子)

2019年度全日音研大会で構想した「鑑賞領域における問題解決型学習の過程」を、今年度は表現領域で追究しました。

子供が音楽で問題を把握し、創造的思考力を発揮しながら音楽活動をする、そして小さな省察を積み重ねながら題材最後の省察(知の総合)に至る道筋を検討しました。

来年度も万全な感染対策のもと、表現領域での研究を継続します。

管楽器研究会 (代表/渋谷・神南小 鈴木 朱代)

今年度77名の会員を有し、コロナ禍においてもなお管楽器活動の可能性を探っていきたい、管楽器を中心に勉強したい、という会員の思いにより、柳沼てるこ先生・後藤洋先生・緒形まゆみ先生・大山博先生・田川伸一郎先生諸氏による充実した実技研修を行いました。オンラインを駆使しリモート合奏にも挑戦し、新しい研究会の形を探っています。

合奏研究会 (代表/江戸川・臨海小 柴田 あゆみ)

合奏研究会では、児童が合奏の喜びを味わえる授業を目指し、研究を続けています。今年度は、感染症対策を行いつつ、豊かな情操を育む合奏指導をテーマに、研究を進めてきました。吹奏楽器を使わない合奏曲について研究を深めたり、器楽分野に関する指導の工夫を共有し合ったりしながら、明日の授業に直接生きる活動をしています。

即興表現研究会 (代表/世田谷・尾山台小 海老原 正剛)

本研究会は「多様な音楽から音楽づくりの教材化を探る」をテーマに研究を進めています。

学習指導要領でも重視されている音楽づくりの領域を、毎回の授業で常時活動として取り入れやすい音楽遊びから子供にとって新鮮さのある現代音楽の技法を取り入れた音楽づくりまでを、実践したりワークショップを行ったりしながら教材化の研究を行っていきます。

講師には毎回、音楽づくりの第一人者である石上則子先生をお招きして、音楽づくりにおける「音楽的な見方考え方」「主体的・対話的で深い学び」についても研究を展開していきます。

鑑賞指導研究会 (代表/荒川・尾久第六小 井上 奈々)

研究主題「音楽の好きな児童を育てる鑑賞の授業をめざして」に向けて「教えること、考えさせること、振り返らせる内容」を明確にした楽しい授業づくりを研究しています。今年度は「祝典序曲」の教材分析・実態に応じたねらいの設定・音源や映像の選択・ワークシート等の作成を経て、ビデオ収録による授業研究と協議会を実施しました。

邦楽教育研究会 (代表/荒川・第三瑞光小 豊田 美千子)

邦楽研では、我が国や郷土の音楽を通して我が国に誇りをもち、国際社会を生きていく豊かな心をもった児童を育てていきたいと考えています。

今年度は厳しい状況の中、宮城道雄記念館を訪問し宮城道雄や箏曲について学んだり、箏の実技研修を行ったりと実践に結び付く研修を行ってきました。今後も様々な和楽器の実技研修や和楽器を活用した授業研究に取り組んでいきます。

電子楽器研究会 (代表/世田谷・代沢小 陸田 祐子)

「子供がすすんで取り組める豊かな響きのアンサンブルを求めて」をテーマに授業における電子楽器の活用法について研究しています。今年度はコロナ禍で3回しか集まることができていませんが、会員が抱える悩みを共有しながら、器楽領域について系統的な指導や評価について顧問の先生の講義を中心に学んでいます。

第57回児童作曲コンクール審査結果

2月12日に授賞式・入選作品演奏会を予定していましたが、緊急事態宣言の発令によりやむなく中止となりました。来年度も多くの作品が生まれることを期待しています。

課題詩の部1「ゆうびんポスト」

鈴木 紀代 詩

- 入選 【審査員特別賞】** 野村紅花
(世田谷・尾山台小6年)
南部紫万(目黒・中目黒小6年)
谷 湧登(目黒・中目黒小3年)
新谷蓮月(足立・東伊興小6年)
木村歌音(町田・南つくし野小6年)
- 佳作** 谷口結菜・野矢 樹・柳沢しきな
(江東・越中島小5年)
遊佐蒼馬(杉並・桃井第四小3年)

課題詩の部2「水車のうた」

うめた ちあき 詩

- 入選** 谷 湧登(目黒・中目黒小3年)
石塚世莉(世田谷・尾山台小6年)
梅崎理央(世田谷・用賀小6年)
- 佳作** 和田彩奈(港・青山小3年)
竹本虹胡(世田谷・桜丘小6年)

自由作品の部ア(旋律のみの作品)

- 入選** 中澤綸々子(目黒・中目黒小3年)
眞木郁帆(足立・千寿第八小6年)
名子屋凜(葛飾・川端小5年)
沼田理玖(江戸川・船堀小2年)
- 佳作** 巻田結菜・岩佐汐莉
(目黒・中目黒小5年)
小柳優歩・高井道人
(練馬・練馬第三小5年)

自由作品の部イ(伴奏等がついたもの)

- 入選 【会長賞】** 嶋田瑛音(町田・南成瀬小6年)
清水美空(江東・第三砂町小6年)
竹本虹胡(世田谷・桜丘小6年)
- 佳作** 中館翔一(世田谷・烏山北小6年)
鈴木祥子(足立・湊江小4年)
高橋 真(江戸川・清新第一小4年)

学校賞(3年連続して作品応募のあった学校)

- 港・青山小 ○文京・林町小
○文京・汐見小 ○墨田・第三吾嬬小
○江東・平久小 ○江東・第二辰巳小
○豊島・駒込小 ○足立・東伊興小
○町田・南成瀬小 ○町田・小山中央小
○小金井・小金井第一小 ○多摩・多摩第一小
○あきる野・東秋留小



♪今年度の受賞作品は、入選作品集としてまとめています。(1冊600円)ぜひ、今後の作品づくりにお役立てください。購入希望の方は下記までご連絡ください。

◇問合せ先：事業部長 脇田秀男(江戸川・葛西小)

♪♪♪ 理事会報告 ♪♪♪

〈12月理事会〉 12 / 10 於：八幡小学校

議長：中村 恭子(豊島・南池袋小)

○会長あいさつ

○議 事

- 1・2・3月の行事予定について
- 令和2年度 多摩南ゾーン大会について
- 第57回 児童作曲コンクールについて
- 各部より *庶務 *会計 *研究
*事業 *調査 *広報

編集後記

休校の中始まった、波乱の1年間も残りわずか。特に音楽科では、様々な活動に制限がかかり厳しい年となりました。しかし、だからこそ子供たちとの音楽がどれだけ素晴らしいものか、改めて実感された先生も多かったのではないのでしょうか。早く皆で思い切り歌える日がきますように。(Y)

会報 都小音研

発行所：東京都小学校音楽教育研究会

発行人：会長 峯岸 敦子

編集：広報部

印刷：コウシン 03-3324-9288